(別紙1)

# 令和5年度 学校評価総括表

十津川村立十津川第二小学校

| 教育目標 | かしこく、明るく、たくましく、豊かに創造する子 | 総合評価 |
|---|---|---|
| 運営方針 | 自ら課題をもち、自ら考え、判断し、自ら解決・創造する活動を通して、自主性や主体性、自尊感情等を育み、<br>人として自立・自律できる児童を育てる。 | B |

| 令和4年度の成果と課題 | 指導の重点目標 | 具体的目標 |
|---|---|---|
| 【成果】・体験活動やICT機器を活用した探求活動を行うなど、目標をもって調べ学習をすることができた。<br>・「数学的な見方考え方」を働かせる授業をすることで、児童はあきらめずに問題解決法を考えようとするようになっている。また、共通した掲示や教材を工夫し作成した。<br>・ICTを活用することで、教員の業務の効率がよくなってきた。<br>【課題】<br>・学校生活を見つめ、課題を見いだす力のさらなる育成が必要である。<br>・家庭での読書習慣が少ない。学校での読書環境整備とともに、家庭と連携を取り本に親しみ本が好きな児童を育てたい。 | （豊かな心・ふるさと教育）<br>・道徳の時間を中心にさまざまな教育活動を通じて、人としてよりよく生きようとする道徳性を養うとともに、あいさつをきっかけに周囲の人との繋がりをもち、ふるさとに誇りをもって生きていく児童を育てる。 | ○児童一人一人の心に響く日々の道徳教育を核にして、互いに認め合う心や自立・自律の心を通して、確かな人権意識を育てる。<br>○主体的に地域に関わり、地域から学ぶことで、地域を知り、その一員として貢献しようとする意欲や態度を育てる。<br>○気持ちのよいあいさつから、人間関係の形成能力・コミュニケーション能力・自主性や主体性の向上をめざす。 |
| | （確かな学力）<br>・各教科の特質に応じた言語能力を育成すると共に、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力等を育てる。 | ○理科学習を軸に、課題に対して見通しをもち、筋道立てて解決しようとする授業を工夫し、児童の「考え、深める力」を向上させる。<br>○ICT機器の活用や、読み解く授業、環境整備をすることで、読解力向上をめざす。<br>○読書や家庭学習及び自主学習などの基本的な学習習慣を身につけさせることにより、学習に積極的に取り組む意欲や態度を育てる。 |
| | （健やかな体）<br>・健康や安全について理解を深め、基本的生活習慣の定着を図ると共に、体力向上を目指して運動に積極的に親しもうとする児童を育てる。 | ○自分の健康や安全について、自ら改善していこうとする意欲と実践力を育て、基本的な生活習慣を家庭と連携して定着させる。<br>○運動に積極的に取り組み、運動する楽しさを味わわせるとともに、運動する意欲を高め、体力や運動能力を向上させる。 |
| | （働き方）<br>・業務のスリム化及び時間の効率化を図り、心身ともに健康でいられる働き方改革を推進する。 | ○業務のスリム化や効率化を進行し、ワークライフバランスの推進を図ることで、笑顔で児童と向かい合い、教育の質を向上させる。 |

| 評価項目 | 具体的目標（評価小項目） | 具体的方策・評価指標 | 自己評価結果 | | | 成果と課題（評価結果の分析） | 改善方策等 | 学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 豊かな心・ふるさと教育 | ○児童一人一人の心に響く日々の道徳教育を核にして、互いに認め合う心や自立・自律の心を通して、確かな人権意識を育てる。 | ○道徳的価値（自立心、共に考え生きようとする態度、規範意識、生命の尊しさなど）の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることができるよう育成する。具体的に、児童が道徳的事象を自分事として考えられるように、自分の経験を活す機会を設ける。さらに、考えたことや気づいたことを発表したりワークシートに書いたりさせることで、自己の生き方についての考えを深められるようにする。<br>○年間を通して、人権意識が高まったかどうかを、道徳ノート、授業の態度や生活の様子から把握していく。 | B | B | B | ・学校アンケートより、友達を大切にしている実感している児童がほぼ100%なのに対し、友達から大切にされていると思っている児童が微増し、児童自身が「したことに対しては満足評価」としたらったことに対しては満足評価している傾向の児童がいる。<br>・保護者も含めて自分を認めてもらえない、居場所を思いだせないと感じる児童への働きかけが課題。<br>・道徳の授業で話し合うことが出来ている児童は増えてきている。 | ・引き続き、児童自身の思いや考えを発表する機会を設ける。さらに授業の最後に友だちの意見を認める時間を教室する。<br>・日頃の生活態度・行動・言動から、人権意識が高まっているかを把握していくとともに、教員間で共有する時間をとる。<br>・副教材を活用しやすい環境を整えておきたい。<br>・他の教員の道徳の授業を参観する時間を確保する。 | ・取組ができていても、それを「できている」と子どもが感じられない、もしくは分かっていても現状で満足いうことがあるのではないか。<br>・小学校の学びが丁寧になされている。また、先生方が1年の活動を振り返り次へのつながりを考えている。<br>・地域学習ができないと思っているのは、若い先生方ではないか。<br>・地域に明るい先輩の先生が教えてあげないといけない。何か密着してあげてほしい。地域をどんどん使ってほしい。<br>・経験者とのつながりを取り戻す活動を学校でしてくれている。（総合的な学習の時間）<br>・地域連携の総合部会でやってくれていると思うが、情報交換をして、地域学習の流れを作ったらよい。年間計画を出し合い、すり合わせ、9年・12年を見据えた地域学習の流れを作ってほしい。<br>・昔の子どもは地域ではじけて遊んで、くたくたになって帰っていた。今はそういうことが少ない。地域の活動にもなかなか出てこない。地域のお祭りなどに子どもが来てほしい。<br>・あいさつは81%は上等。大人でもあいさつできない人もいる。挨拶するのでは なく「なぜするのか」を教えてほしい。ゲームではなく「外遊び」をするのはなぜなのか子どもに教えて欲しい。本を読むのも同じ。本を読む手掛かりを作ってほしい。<br>・アンケートであいさつについて子どもからコメントが出た時点で大正解。声が出なくても目が合っただけ、笑顔になっただけでもあいさつ。互いを認め合っている。<br>・理科学習の方法の追究では高校の先生を活用してほしい。<br>・イングルーシブ教育」を丁寧にされている。実態に応じた配慮もできている。分けるだけではなく一緒に学ぶことも大切。<br>・読書発表会を行い側に見てもらうことで、家庭での教育につながるのではないか。<br>・ICT機器の活用は、子どもたちもどんどんできるようになってきている。今後は家庭との連携や協力が必要。<br>・ICT機器ありきの時代なので、「持って帰らせない」はだめ。家庭での使い方を教育の保護者への啓発や連携が必要。<br>・生活アンケートの結果から、生活リズムを整えるように家庭へ呼びかけ連携したり協力してもらったりする必要がある。<br>・「給食がおいしい、外でよく遊ぶ」ということが望ましい健康である。食育について今まで以上に力を入れて取り組んでいく必要がある。 |
| | ○主体的に地域に関わり、地域から学ぶことで、地域を知り、その一員として貢献しようとする意欲や態度を育てる。 | ○生活科や総合的な学習の時間では、村のことに触れる体験活動「地域探検・村内めぐり・防災学習・森林学習・歴史学習」を行う。また、、生活の中から地域に関わる探求課題を見いだし、課題解決「探求課題の設定、情報収集、整理分析、まとめ・表現（伝承）」をできるよう育成する。 | C | C | | ・生活科や総合的な学習の時間の年間計画に、ゲストティーチャーの活用を明記するなど、地域素材を活用できる計画に見直していく必要がある。また、それぞれの学年でのねらいをしっかりともち、十津川村に関わる本校の特色ある取組をしていく必要がある。<br>・コロナ禍があけた今こそ、「例年通り」ではない取組を再構築していく必要がある。 | ・生活科や総合的な学習の時間の年間計画に、ゲストティーチャーの活用を明記するなど、地域素材を活用できる計画に見直していく必要がある。また、それぞれの学年でのねらいをしっかりともち、十津川村に関わる本校の特色ある取組をしていく必要がある。<br>・コロナ禍があけた今こそ、「例年通り」ではない取組を再構築していく必要がある。 | ・引き続き、日々教職員から声を掛けたり、「よいあいさつ」を行ったりすることを継続していき、学校の外で「よいあいさつ」ができる児童を育てる。<br>・日々の教職員の声かけや、「よいあいさつ」の姿を見せることを心がけたい。<br>・年度初めに学級会グッズを確認し、学級会や代表委員会の活発な活動を促していく。 |
| | ○気持ちのよいあいさつから、人間関係の形成能力・コミュニケーション能力・自主性や主体性の向上をめざす。 | ○児童が笑顔で気持ちの良い挨拶ができるように日々意識して、教職員が声かけをしたり、ほめたり、さらには教職員も、よいあいさつを日々積極的に行ったりしていく。<br>○「あいさつ」について、全教職員が、意図的な指導を毎日継続的に行うようにする。<br>○学級や学校生活（委員会・クラブ会）をよりよくするために課題を見いだし、課題について話し合い、合意形成し、実践（役割分担・協力し、解決することを通して、児童が主体的に活躍し輝ける素地を養う。 | B | B | | ・自分で考えて、「よいあいさつ」をしようとしている児童が増え、あいさつの意識が高まってきたが、保護者の意識は「よいあいさつ」にする満足回答が81.8%にとどまっているため、学校の外でのあいさつを高めていかなければならない。<br>・それぞれの学年での学級会や、児童会の代表委員会で、学級や学校生活がよりよくなるように話し合い、実践することができた。 | ・引き続き、日々教職員から声を掛けたり、「よいあいさつ」を行ったりすることを継続していき、学校の外で「よいあいさつ」ができる児童を育てる。<br>・日々の教職員の声かけや、「よいあいさつ」の姿を見せることを心がけたい。<br>・年度初めに学級会グッズを確認し、学級会や代表委員会の活発な活動を促していく。 | |
| 確かな学力 | ○理科学習を軸に、課題に対して見通しをもち、筋道立てて解決しようとする授業を工夫し、児童の「考え、深める力」を向上させる。 | ○理科の学習の過程における「予想する」ことを重要視し、探求のプロセスを繰り返し行うことで、見通しをもちやすくできる授業展開になるように工夫する。また、「理科タイム」を設けるなど理科について理解を深めたり、地域素材を活用したりすることで児童の興味・関心を高め、見通しをもてるようにしている。県の学力診断を活用し、習熟度を確認する。また、昨年度の記録より学級平均を上回るように指導を行う。 | B | B | B | ・授業で、予習をさせてから実験や観察をする児童が増えてきている。<br>・「理科タイム」では地児童が理科に親しんだが、回数を増やしていきたい。<br>・ゲストティーチャーを活用することで地域素材に親しむことができた。<br>・県の学力診断では全学年が県平均を上回り、2学年が昨年度の記録よりも回ることができたが課題も見られる。 | ・授業の流れを統一し、どの教員も同じように授業のプロセスを意識して授業を展開できるようにする。<br>・意見を出し合う場を設けるなど教員で取り組み、「理科タイム」の充実を図る。<br>・来年度も県の学力診断を活用し、児童の実態把握に努める。 | |
| | | ○特別支援学級では、児童の理解度に合わせて学習内容や進度を調整し、計画的に繰り返し学習することで定着を図る。また、個に応じて教材や教員を工夫することや、実験や観察を丁寧に行うことで、理解を深められるようにする。個別の指導計画での達成度から検証する。 | B | | | ・児童の実態に応じて学習課題を設定し、単元によって個別学習や交流学習という学習の形を変えることもあった。<br>・授業時間ごとのあるべき学習内容を示すことで、児童が見通しをもって学習に臨むことができた。<br>・今年度指導計画案の様式が変わった。学級ごとの振り返りを、新学期の目標設定に活かした。 | ・個に応じて学習形態を設定していくと、担任数量の部分が大きくなった。複数教員もあり、共有を図る必要性を感じながら、打ち合わせの充分な質、量を確保できなかった。定期（第3次）で決めたほうが集まりやすいかと思う。 | |
| | ○ICT機器の活用や、読み解く授業、環境整備をすることで、読解力向上をめざす。 | ○教科書や資料の図やグラフの統じつ含を確認したり、QRコードを活用したり、授業の前に児童が理解できないと推測される語や表現を調べたりして、充実した授業展開になるようにICT環境を整備していく。電子図書館や朝日デジタル小学生新聞を学習内で活用したり、読解力向上プロジェクトのモデル授業案を活用したりする。 | B | B | B | ・読解力向上プロジェクトを活用し、特に高学年では語彙指数や文章の新聞を活用した学習に力を入れて行った。<br>・Wi-Fi環境が整備されたことで、タブレットを十分に活用した授業展開が行いやすくなった。<br>・今年度実施したアンケートやスキルテスト（6年生が実施）では、【回答文対応】に課題が残り、全体で共有し、今後の指導に役立てるように検討しきった。 | ・児童は95%がタブレットを使っての学習に前向きに取り組んでいる。児童の学習道具の一部になってきているが、扱い方についての指導を徹底していきたい。<br>・リーディングスキルテストで明らかになってきた課題【語彙力・問題文対応】などを学校全体であげていきたい。 | |
| | ○読書や家庭学習及び自主学習などの基本的な学習習慣を身につけさせることにより、学習に積極的に取り組む意欲や態度を育てる。 | ○読書タイムや図書委員会活動などを通して、さまざまな本に触れる機会を増やしたり、国語科の学習と関連した図書コーナーから並行読書を推奨したりして読書に親しむ態度を育てる。 | C | C | | ・毎日家で読書をしている児童は約半分で、定着はしていない。<br>・学年が上がるにつれて、家で本を読む児童減ってきている。<br>・7月から12月のアンケートも数値はあまり変わっていない。<br>・読み聞かせにより、興味関心につながった。 | ・教員による読み聞かせはすどもが本に興味をもつきっかけの一つとなった。本の紹介や読み聞かせの時間を定期的にとっていきたい。<br>・ICTの活用なども含め、いろいろな角度からの方法を試していきたい。今のままの取組では変わらない。<br>・図書室が親もが訪れたくなるような、場所にしたい。 | |
| | | ○学習内容に即して児童が学びやすく、分かりやすい宿題を設定したり、コグトレや eライブラリを自主学習に推奨したりして、家庭学習の習慣化を図る。宿題の設定として、日記や音読、読書を入れるなど教員間で共通した意識をもって取り組む。 | C | | | ・宿題以外の学習をしている児童が半数弱と少なくなっている。また、宿題にコグトレ等自主学習を促す課題を出す教員も少ない。<br>・長期休暇では、全学年の宿題を共有した。<br>・決まった時間に宿題をする児童が少ない。 | ・自主学習を推奨するよう教職員が3ヵ月に意識し、家庭学習の習慣化を図る。<br>・自主学習を進めやり、決まった時間に宿題を行ったりできるよう、家庭教育学級や懇談等で伝え、家庭と学校が連携していく。<br>・タブレットを毎日持ち帰り、家庭学習に使うことがより求められてきそう。 | |
| 健やかな体 | ○自分の健康や安全について、自ら改善していこうとする意欲と実践力を育て、基本的な生活習慣を家庭と連携して定着させる。 | ○生活習慣や安全意識に関するアンケートを実施し、その結果や毎月の保健目標などを保健掲示板に掲示すると共に、全校集会・下校会で呼びかけることで、健康・安全に過ごす意識を高める。生活習慣や安全意識に関するアンケート結果や、児童の学校生活での様子や保健室の来室状況から健康・安全に関する意識を把握していく。 | C | C | B | ・生活アンケート（保護者）では、早寝・早起き・朝食をきちんとが行いる児童が10%減っている。生活リズムチェックでも9月より月の方が良くない傾向にあった。<br>・砂糖水少入る飲料にいる児童が増えている。また、保健室来室理由を把握し、その都度担任と連携することができた。 | ・生活リズムを整えるよう、保護者に向けても懇談等の機会に伝えていく。<br>・けがなく安全に過ごしていけるように、助けるけがについてしっかり伝えていく。<br>・今後も児童の健康状態について、担任と情報共有を行っていく。 | |
| | | ○栄養教諭による月目標に沿った指導をし、食への感謝の気持ち・食べる喜び・マナーを育めるように、給食での児童の様子や残食量などから児童の実態を把握していく。 | B | | | ・昨年度より栄養教諭の来校が減り、月目標に沿った指導が不十分であった。<br>・完食を心がけ、教職員が量に合った声かけをすることができた。<br>・給食が好きな児童が多く、給食について家で話す児童が増えた。 | ・今年度以上に栄養教諭との連携を図る。<br>・今後も児童の実態把握に努め、児童が必要量を調整できるようにする。<br>・食育が学級活動の中に位置付いていることを意識し、各学級で取り組むようにする。 | |
| | ○運動に積極的に取り組み、運動する楽しさを味わわせるとともに、運動する意欲を高め、体力や運動能力を向上させる。 | ○休み時間の外遊びを推奨したり、教教員が実施する「外遊び、みんなでチャレンジ！」に取り組み、記録を掲示することで、運動に挑戦する意欲を高めるとともに、色んな運動種目を取り入れ、運動する楽しさを味わわせる。また、週一回の縦割り班で運動する機会を取り入れ、異学年で運動をする機会をもったり、運動種目の好意度を把握したりする。 | B | B | B | ・アンケート結果より、7月から12月にかけて、外で遊ぶ児童の割合が増加しており、教職員外遊びを推奨している。<br>・外遊びの実際としては、サッカーと鬼ごっこ、固定遊具での遊びをする児童が大半であり、その他の遊びはほとんど行われていない。<br>・「外遊び、みんなでやチャレンジ！」は体育行事との関係で十分実施できなかったことが反省としてあがられた。 | ・縦割り活動や「外遊び、みんなでチャレンジ！」を引き続き取り組んでいく。また、体育指導の中で多様な運動（遊び）を紹介し、多様な運動（遊び）への魅力を感じられるようにしていきたい。<br>・体育の活動での遊び内容を定期的に変えたり、体育委員と連携したりして、学校で遊びを多様に広げられるようにしていきたい。 | |
| | | ○スポーツテストで課題として柔軟性と持久力が挙がった。柔軟性を高めるためにストレッチコーナーを設置する。持久力を高めるために柔軟活動のジャンプアップを行ったり、冬期にはマラソンを行ったりする。また、運動能力の向上のために、高校の体育科教員を招聘し、スポーツテストの事前指導を受ける。さらに、教員が講習を受け、授業支援をしてもらうことで指導力の向上につなげる。昨年度のスポーツテストと今年度の体力テストを比較し、児童の実態の理解に努め、成果と課題を把握する。 | B | | | ・体力の課題としてあげた柔軟性と持久力の傾向は、多くの学年で向上している。一方で、横力や上体起こしの傾向は低下しており、課題となった。<br>・アンケート結果より、7月から12月にかけて、体力の向上を感じている教員・保護者が増加している。一方で、体力の向上を実感できている児童は少なくなっている。そのため、児童が成長を感じられるような指導・活動にしていく必要がある。 | ・スポーツテストの事前指導が効果的であったため、高校の体育科教員を招聘し、引き続き実施していく。また、児童や教員が難しさを感じている柔軟指導への指導支援をしてもらうことで、児童の運動能力向上と指導力向上につなげていく。<br>・指導にスモールステップを活用し、児童が達成感を得て、自信をもてるようにしていき、運動に取り組む意欲につなげていきたい。 | |
| 働き方 | ○業務のスリム化や効率化を進行し、ワークライフバランスの推進を図ることで、笑顔で児童と向かい合い、教育の質を向上させる。 | ○業務内容を精選し、教職員間の連携を図り、業務を分担することで効率よく協力して仕事を進めることができるようにする。<br>○チームや開接学年で教材教員ICT活用などを共有することで、質の高い教育のための手法を身につける。<br>○ロックアウト時刻を意識し、月45時間までの超過勤務を目安にしながら効率的に業務を進める。 | B | B | B | ・教職員間の連携を図り、ICT機器を活用することで、業務の効率を上げて行き。<br>・アンケートでは、ロックアウトを意識したり、元気に働けていると感じたりしている一方で、業務に強いストレスを感じている回答している部分もあり、ストレス部分を緩和できる方法を考えていきたい。 | ・業務のストレス部分が緩和され、働きやすい環境になっていくように、教職員間での連携を図り、業務内容を精選していきたい。<br>・今為る業務を再度見直し、精選したり時時ならしたりしていく。<br>・年度末はロックアウトをより意識したり、定時退勤日を設けたりしながら、よりよい働き方をめざしていきたい。 | ・働き方については中学校も頑が張い。全校の下校が時半なので授業時間はすでに45時間を超えてしまう。環境を整えなければいけない。 |

A：達成できた（90%以上）　B：概ね達成できた（70～89%）　C：あまり達成できなかった（50～69%）　D：達成できなかった（49%以下）